

他人を意識してみなりを整えるということは、小、中、高生をとおし 8.8%～19%までみられるが、中学校女子の生徒が、全体をとおし最低で、8.8%の状態であるが、学年差はあまり見当らない。ときどき友だちを考える状態も小、中、高生として著しい変化はないが、中学生の男子が全体の3分の1の状態で、やや少率きみである。ただ高校生の半数以上は、友だちを意識して生活する

のは、当然の事実であろう。

反面、ほとんど友だちを意識しないのは、中学生が最高で、自己の欲求と自立心が育ったことが、おとなへの自覚の芽生えと「もう子どもでない」という「自我のめざめ」へつながる大事な時期であるように思われる。

この時期こそ、細心の注意と温かい親の配慮が必要となるであろう。

6. 男女交際は、どのような状態でしょうか。

表5. いつごろから異性を意識するようになったのだろうか。

選択肢	学校					
	小学校		中学校		高校	
	男	女	男	女	男	女
1. 小学校4年以前	12.1	12.6	0	2.4	12.0	7.0
2. 小学校5年	23.4	9.0	10.3	7.2	5.0	9.0
3. 小学校6年	8.1	12.6	12.9	15.2	20.0	9.0
4. 中学校1年	0	0	33.6	37.6	15.0	11.0
5. 中学校2年	0	0	10.3	11.2	16.0	11.0
6. 中学校3年	0	0	0	0	8.0	9.0
7. 高校1年	0	0	0	0	4.0	2.0
8. 高校2年	0	0	0	0	2.0	0
9. いつごろかよくわからない	56.4	65.8	25.9	26.4	18.0	42.0

図10-2 異性の友だちに対する関心（女子）

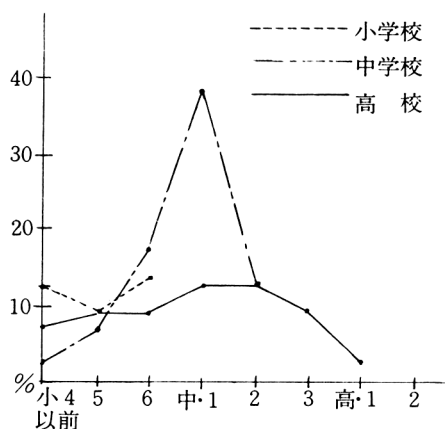
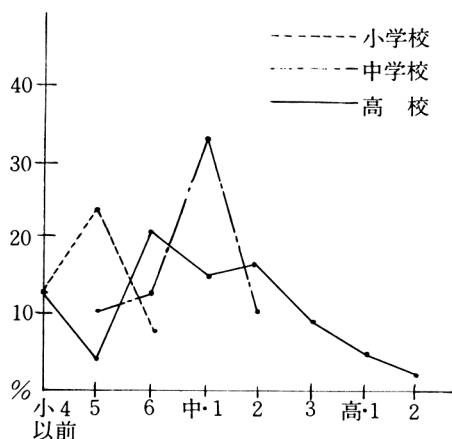


図10-1 異性の友だちに対する関心（男子）



異性に対する関心は、小学校高学年から中学校1年をピークにして関心度を増すのがわかる。中2以後は下り坂の状態で、比較的分散している。

これは、異性を意識するのが、過去の記憶にさかのぼって求めることが、やや困難の点があり、いつごろかよくわからないという者が、小学生で半数以上、高校女子で42%の者が、はっきりしないという。上記の調査は概括的傾向ととらえてよからう。

ただ昭和47年度の調査と比較すると年々児童・生徒の異性意識が、低年齢化するのが見られるが、このことに対する配慮が、いっそう重要なことになるのだろう。